

## 留萌での生活

---

ナヲは、はじめ絵を描<sup>か</sup>いて生活しようと考えていました。

しかし、当時の留萌はまだ田舎<sup>いなか</sup>で、絵を描<sup>か</sup>いて生活できるほど文化が熟<sup>じゆく</sup>していませんでした。

それで、正覚寺<sup>しょうがくじ</sup>のお嬢<sup>じょう</sup>さんや、お医者さん、神主さんたち4、5人に茶道を教え始めました。

だんだんと評判<sup>ひょうばん</sup>になって、少しずつ<sup>にしんば</sup>鯉場の親方<sup>しじょ</sup>の子女たちが茶道を習い始めていきました。

日中は、雨の日も、風の日も、吹雪<sup>ふぶき</sup>の日も茶道を教えに留萌のほか、増毛<sup>ましけ</sup>、鬼鹿<sup>おにしか</sup>、羽幌<sup>はぼろ</sup>などへ出向き、夜は夜で茶道の研究<sup>つづ</sup>を続けて、1日に3時間くらいしか眠<sup>ねむ</sup>っていなかったといえます。